



特別インタビュー

企業動向

過渡期にある水素水市場

300億円規模のマーケットをもつとされている水素水は、健康・美容関連市場の中でも特に成長が著しく、今後の発展が期待されている分野だ。

臨床研究も進んでおり、さまざまな疾病に対する有用性も明らかになっている。その一方で、水素水の不明確な「効能効果」を謳う業者もネットを中心に散見され、一部では水素水を「エセ科学」であるとする論争も巻き起こった。MiZ(本社・神奈川県鎌倉市、佐藤武社長)は、約20年にわたって水素分野の研究開発を手がけてきた先駆け企業。取締役研究開発担当・獣医学博士の平野伸一氏は、水素水を取り巻く玉石混交の現状を危惧し、健全発展にはエビデンスに基づいた製品開発と適切な情報提供が必要だと強調する。

玉石混交にある 水素水市場

— 水素水関連市場は

昨今、取り扱い企業の増加や消費者の関心の高まりを受けて拡大傾向にあり、300億円規模にま

で達しています。その一 方で、水素水の機能性が抑制など、さまざまな有り難い効能効果を謳った業者は、これまでにわたり、さまざまな疾病に対する有用性を明確に示すための臨床データは、これまでにないほど多くあります。現在、順天堂大学での臨床研究では、約180人のペーキンソン病患者および70人の慢性閉塞性肺疾患の患者に対する治療効果が、一人歩きしている状態だと…。

— 現時点では、水素水を健

平野伸一氏

取締役研究開発担当・
獣医学博士

MiZ

商品が、堂々と「水素水」と謳って販売されているのが実情です」

御社は、約20年にわたって水素医療の研究開発を行っており、水素水製品も研究開発されています。現在の水素水を取り巻く環境について、

「弊社はこれまで、国

際、7ppmの水素水を

「先ほど申し上げたよ

品」に分類される水素水

— 「いわゆる健康食

定義不明確な

水素水

— 「いわゆる健康食

水素水問題について討議さ

れました。私はパネラー

として出席し、水素医療

騒動の発端となった新聞

会では、「エセ科学」

が認められ、病気の予防

や治療に利用されるに

おもて、この意見交

換会では、

「エセ科学」

として出席した。水

素は、「エセ科学」でな

く、水素の医療利用を目

的とした臨床研究は着実

に進んでいることが理解

されました。水素水メー

カーになるための垣根が

非常に低いため、沢山の

研究が進んでいます。

— 医療分野での臨床

研究が進んでいますが、

「いわゆる健康食品」に

分類される水素水関連分

野ではどのような状況な

のでしょうか。

「水素水については現

在、水素分子のいわゆる

『悪玉活性酸素』の消去

水素が抜けてしまつてい

ます。

「水素水については現